

「新型コロナウイルス感染症」新シリーズの企画にあたって

編集委員長 森下英理子

Planning of a new series “COVID-19 Infection”

Eriko MORISHITA

昨年 12 月以降中国の湖北省武漢市から流行が始まった新型コロナウイルス感染症ですが、今では世界中に広がりを見せ、WHO は 10 月 5 日に世界の 10 人に 1 人が既に新型コロナウイルスに感染した可能性があるとの見方を明らかにしました。感染しても患者の 8 割は重症化に至らずに治癒しますが、2 割弱の患者では肺炎の症状が増悪し、さらに約 5 ～ 10% の症例が ICU にて集中治療が必要となり、5% が致命的になると言われています。重症化には血栓症や血管内皮傷害が大きく関するとの報告が相次ぎ、重症化のマーカーとして D-dimer が注目され、一気に血栓症にスポットライトが当たり始めたのです。本学会といたしましては、新型コロナウイルス感染症関連血栓症に積極的に取り組むことが社会的使命と考え、5 月にホームページ上に市民および医療関係者向けの警鐘メッセージを掲載いたしました。また、10 月には厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患政策研究事業「血液凝固異常症等に関する研究」班と動脈硬化学会血栓部会との共催で全国 400 施設に向けて「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連血栓症に関するアンケート調査」を実施いたしました。さらに、今回血栓止血誌にも「新型コロナウイルス感染症」新シリーズを立ち上げ、本学会員の皆様に新型コロナウイルス感染症の最新の情報をご紹介したいと考えております。COVID-19 感染症は肺だけでなく腎・肝・心筋・眼・皮膚など様々な臓器に影響を及ぼし様々な臨床所見を呈します。今回のシリーズでは、いろいろな角度から見た COVID-19 感染症を紹介することが、会員各位の今後の臨床ならびに研究の一助になることを期待しております。また、会員各位からの本シリーズに対するご批判やご意見、ご希望を賜れば幸甚に存じます。